

「アブラハムの死と埋葬」

2021年03月01日

アブラハムの生涯の年数は百七十五年であった。アブラハムは良き晩年を迎え、老いた後、生涯を全うして息絶え、死んで先祖の列に加えられた。息子のイサクとイシュマエルは、マムレの向かい、ヘト人ツォハルの子エフロンの畑地にあったマクペラの洞窟に彼を葬った。(創世記 25 章 7 節～9 節)

アブラハムは、サラの死後、ケトラという妻をめとった。彼女は、ジムラン、ヨクシャン、メダン、ミデヤン、イシュバク、シュアの 6 人の子どもを産んだ。「アブラハムには 7 人の子」という歌がある。キャンプに行った時には、この歌を歌い、ユーモラスな振り付け踊りをする。ヨクシャンはシェバとデダンをもうけ、デダンの子孫はアシュル人、レトシム人、レウミム人になり、ミデヤンの子孫はエファ、エフェル、ハノク、アビダ、エルダアである。これらは、アブラハムが再婚したケトラの一族であるという。これが、事実であるかは、疑わしい。アブラハムは全ての財産をイサクに譲り、継室となったケトラの子どもたちにも贈り物を与え、東のケデムの地に移住させ、イサクから遠ざけた。側女、継室の子どもは、嫡男とは扱いが全く違う。家柄、血筋を貴ぶ文化を背景にしている。

「アブラハムの生涯の年数は百七十五年であった。アブラハムは良き晩年を迎え、老いた後、生涯を全うして息絶え、死んで先祖の列に加えられた。息子のイサクとイシュマエルは、マムレの向かい、ヘト人の子エフロンの畑地にあったマクペラの洞窟に彼を葬った。」アブラハムの神の真実を求めた生涯は、神からの大いなる祝福に与り、余りある恵みを得た。「私が示す地に行きなさい。私はあなたを大いなる国民とし、祝福し／あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福の基となる」という神の言葉は真実であった。アブラハムは妻サラを葬るためにヘト人ツォハルの子エフロンから買ったマクペラの洞窟に、息子イサクと女奴隷ハガルが産んだイシュマエルの兄弟二人によって葬られた。イシュマエルは、父アブラハムの死を知らされ、遠くパランの荒れ野から駆け付けた。彼は父との関係は希薄であったが、父への敬意を持っていたということであろう。イサクは愛する母サラを失い、敬愛する父も失った。大きな喪失感を持ったであろう、しかし、アブラハムの死後、神はイサクを祝福された。アブラハムへの祝福を間違いなく継承されたのである。

イシュマエルは、ネバヨト、ケダル、アドベエル、ミブサム、ミシュマ、ドマ、マサ、ハダド、テマ、エトル、ナフィシュ、ケデマの 12 人の子どもをもうけ、彼らはそれぞれの部族の族長になった。イシュマエルの生涯は 137 年であった。彼もまた、アブラハムの子孫として、大きな祝福に与った。彼の子孫は、母ハガルの祖国エジプトに近い地域に住んだ。「イシュマエルはすべての兄弟と対立して暮らした。」彼の兄弟はイサク、そして、ケトラが産んだ 6 人である。彼らと対立したという。古代社会は激しい部族抗争に明け暮れていた。血が繋がった兄弟とは言え、争いが絶えなかったということであろう。

アブラハム物語は、イシュマエルに関する記述で終わっている。私はアブラハムを下記のように想像している。背が高く、筋肉質で、髪は長く、あごひげを蓄えている。岩の上に立って、風に吹かれ、前方を凝視している。どんな苦境にも耐えて、信じられる確かなものを得たいと求道の心に燃えていた。そして、それを得た。イスラエル人は、彼を信仰の父として誇り、信仰の模範者として仰いだ。私たちは信仰において、アブラハムの子孫である。彼と同じように、神の真実を主イエスに見る祝福に与っている。